

2022年度後期授業アンケートのサマリー

1 はじめに

平素は本学FD活動にご協力下さり有難うございます。標記の授業アンケート結果を、学生の成長度・満足度を上下させる要因を考察する形で纏めましたのでご参照頂ければ幸いです。今期の授業はほぼ対面形式で実施されました。アンケート評価の平均値・標準偏差に加え、学生の成長度及び総合満足度と各評価値との相関関係、さらに自習時間が長い回答者の中で総合満足度が高い・低い回答における受講の様子を深堀して分析しております。なお本集計には履修訂正・削除者が含まれ、大学院科目とゼミナールは含めておりませんので、末尾の参考資料を含む同種の集計資料と差異がある点をご了承下さい。

2 アンケートの回収状況について

今回は履修登録者延べ数69,521件に対し回答数が44,025件となり、アンケート実施率は98.1%、アンケート回収率は63.3%でした。期末のご多用な中、アンケートの回収にご協力下さり誠に有難うございます。授業アンケートはFD活動その他に関わる貴重な情報であり、引き続き回収率の維持・向上にご協力頂きたく、お願い申し上げます。

3 各設問の平均値・標準偏差

基本統計量における平均値と標準偏差を下表に記します。設問11の自習時間以外の各設問の平均値は4付近で、その±1に回答が集中しており、これらは毎学期ほぼ同じ傾向です。

表 各設問の平均値と標準偏差(独立した選択肢を持つ設問は除外)

No	質問文:教員の授業の進め方・熱意に関するもの	平均値	標準偏差
1	教員は、学生達が理解しているかを確認しながら授業を進行したと思いますか？	4.21	0.96
2	教え方について工夫がよくなされていたと思いますか？	4.23	0.94
3	板書やスクリーンに示された内容、配付資料は理解を深めるために役立ちましたか？	4.33	0.90
4	話し方は聞き取りやすかったですか？ (話すスピード・声の大きさ・マイクの使い方)	4.33	0.91
5	学生の質問や作業・発表に対し、教員から十分なフォローやフィードバックがあったと思いますか？	4.23	0.94
6	受講マナーが守られるように配慮され 良い雰囲気のもと授業が行われていたと思いますか？	4.31	0.88
7	高い学習成果を修めてもらいたいという教員の熱意が伝わったと思いますか？	4.29	0.90
8	考え方や社会的視野が広がり、学習力や探求力の向上に 得るところがあったと思いますか？	4.30	0.89
9	今後の学習や研究、また、将来の仕事の選択などに 役に立つ内容であったと思いますか？	4.31	0.90
質問文:学生の意欲や達成感(振返り)に関するもの		平均値	標準偏差
11	この授業に関して授業時間以外に 事前・事後学習をどの程度学習しましたか？ (一週間平均。宿題や課題の実施時間も含む。)	1.05	1.04
12	この授業の内容は十分理解できたと思いますか？	4.05	0.94
13	シラバスに記載されている教育目標が達成できたと思いますか？	4.11	0.91
16	この授業を次年度履修する学生に勧めたいと思いますか？	4.22	0.98
質問文:総合評価		平均値	標準偏差
17	この授業によって成長できたと思いますか？	4.23	0.92
18	この授業は総合的に判断して良い授業であったと思いますか？	4.28	0.93

注:設問11は選択肢に該当する時間数を集計(5の「4時間以上」を「4」とした)

前述の平均値・標準偏差から特に下記の傾向がみられます。

1) 自習時間(設問11)の平均値(1.05(時間))は、2022年前期(1.06)に対してわずかに減少しました。オンライン形式が多かった2020年後期(1.42)と比べると対面形式では自習時間が減少する傾向が続いております。

2) 理解度を測る設問12は、前回から0.05ポイント減少しました。この設問はオンラインから対面方式に戻った際に数値が上がり、その後も増加していましたが、今回は減少に転じました。

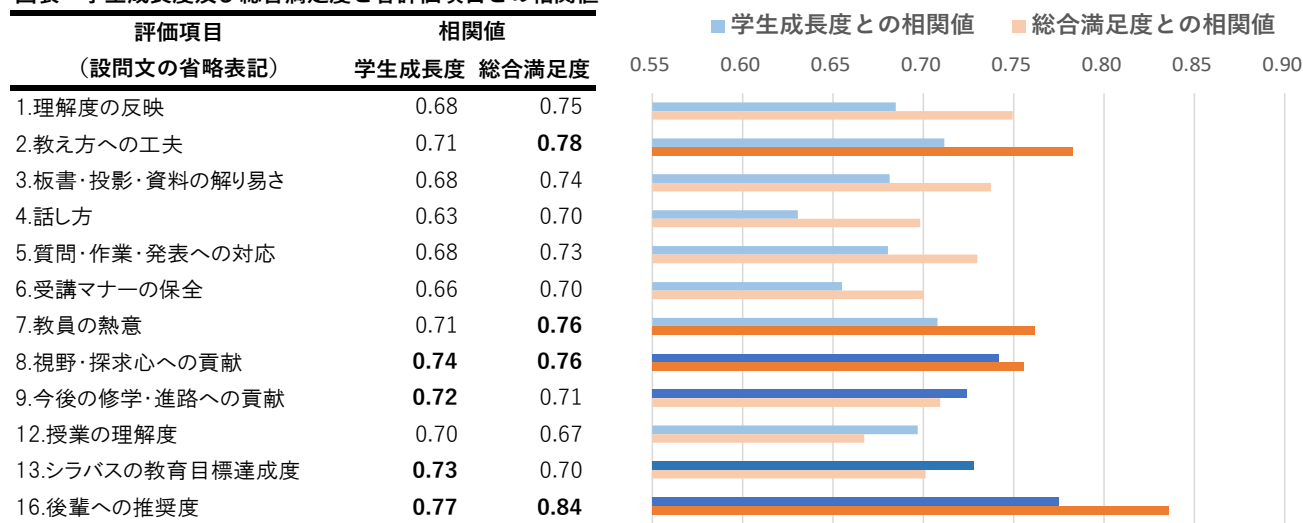
3) 設問11と12を除き、前回からの変化は最大でも0.03ポイントでした。「教員の授業の進め方・熱意に関する」設問(設問1-9)では、設問3だけが低下し、それ以外は増加していました。

主要な評価値は前回とほぼ同じ結果でしたが、授業のための自習時間が近年くなる傾向にあり、注視すべきことです。また、授業を十分理解できたとする回答が減少したことから、予習・復習課題を設けるなど理解度を上げるための工夫をご検討ください。

4 学生成長度・総合満足度に関連する項目の考察

次に授業アンケートにおける主要な評価指標である「学生成長度(設問17)」と「総合満足度(設問18)」を左右すると思われる事項を、その他の評価項目との相関分析によって推定したいと思います。各項目との相関値を算出し、下記の通り表とグラフにしました。

図表 学生成長度及び総合満足度と各評価項目との相関値



(ご参考)過去の分析から「全て同じ選択肢を選択している回答(独立した選択肢を持つ設問を除く)」を除外した際の相関値は0.08~0.12下がりますが、項目内の順位は変わりませんでした。

上記の図表を基に、学生成長度と総合満足度に対し特に関連しそうな事項を以下に記します。なお「後輩への推奨度(設問16)」は上記2項目の学生成長度・総合満足度と同様に授業の最終評価に類する評価のため、下記の考察からは除外します。

1) 学生成長度に関連しそうな事項

「視野・探求心への貢献」「今後の修学・進路への貢献」「シラバスの教育目標達成度」

⇒新たに学習する項目について探究心を引き出すようなテーマを設定すること、また、履修した科目を学ぶ意義や目的、学科カリキュラムの中での位置づけといった点についてシラバスなどを利用して学生に理解をさせた上で学習させることが、学生の成長意欲の向上につながると推測されます。

2) 総合満足度に関連しそうな事項

「教え方への工夫」「教員の熱意」

⇒教え方を工夫するといった教員の努力や、学生に理解を深めて欲しいと思う熱意は、学生に伝わっていることがうかがえます。理解が難しい単元では、特に講義方法を工夫して、学生の反応から理解度を確認しながら講義を進めていくことで総合満足度向上につながると推測されます。

また上記の図表によると、「視野・探求心への貢献(設問8)」は、学生の成長・満足度の双方に対して比較的強い相関が認められました。これは2022年前期やそれ以前の近年のアンケートでも同様の結果でした。このことから、学生の探究心を引き出すような課題を設定すること、またそれを示すタイミングや提示方法を工夫する価値があると思われまます。

5 自習時間が長く総合満足度が高い・低い回答の様子

上記3章で除外した独立した選択肢を持つ設問として、「受講した動機(設問10)」、「成長を感じる事項(設問14)」、「理解を深める仕組みや工夫(設問15)」があります。本章ではこれらの設問について特に時間をかけて修学している(「自習時間(設問11)」が4時間以上)中で、「総合満足度(設問18)」が最高／最低の回答を抜き出して傾向を考察しました。これにより、「負荷をかけても満足度の高い学びにつなげるポイント」および「熱意を込めても満足度が下がってしまう要因」を探りたいと思います。

表 独立した選択肢を持つ設問における集計結果

No	設問文 (省略表記)	選択肢 (一部省略表記)	該当条件内での割合		
			全体	4時間以上自習	
				満足度最高	満足度最低
10 受講した動機		1 友達の受講または勧め	3.6%	17.5%	2.0%
		2 先生が面白そう	5.0%	6.6%	4.1%
		3 自分の専門・人生に役に立ちそう	18.1%	30.1%	7.1%
		4 内容が面白そう	9.9%	9.1%	3.1%
		5 単位をとるため	63.4%	36.8%	83.7%
14 成長を感じる事項		1 成長した能力はない	10.3%	12.1%	57.1%
		2 技術者としての倫理観	10.3%	14.0%	6.1%
		3 プレゼンテーション能力	9.9%	14.0%	4.1%
		4 自ら継続的に学ぶ能力	19.6%	17.0%	15.3%
		5 社会で必要な教養・基礎力・専門知識	49.9%	42.9%	17.3%
15 理解を深める仕組みや工夫		1 グループワーク・発表	13.8%	35.1%	6.1%
		2 振り返り教材のアップロード	25.8%	23.7%	16.3%
		3 アンケート・小テストでの理解度把握	28.8%	14.2%	8.2%
		4 その他の仕組みや工夫	19.2%	23.0%	4.1%
		5 仕組みや工夫はない	12.3%	4.0%	65.3%
各列に該当する回答の件数：			43,158	1,340	98

1) 「受講した動機(設問10)」について

全体の6割強が「単位をとるため」という意識の中で、長時間自習を行い、かつ総合満足度が最高(「長時間自習×高満足」)の層の回答ではその割合は4割弱であり、「自分の専門・人生に役立つ」という回答が高い割合となっていました。自分の学びたいことや将来の進路を意識して受講していることが自主的な学習につながっていると考えられます。

2) 「成長を感じる事項(設問14)」について

「長時間自習×高満足」の層では「成長した能力はない」というネガティブな回答の割合は低く、それ以外の回答はいずれも「長時間自習×低満足」の層より高い割合でした。特に「社会で必要な教養・基礎力・専門知識」の割合が高い傾向にあり、目的意識を持って積極的に学んでいる様子がうかがえます。

3) 「理解を深める仕組みや工夫(設問15)」について

「長時間自習×高満足」の層では「仕組みや工夫はない」というネガティブな回答の割合は低く、それ以外の回答はいずれも高い傾向にありました。「その他の仕組みや工夫」の詳細はアンケートからは分かりませんが、教員が独自に工夫したことが、この層の学生には受け入れられていると考えられます。

最後にネガティブな回答にも目を向けたいと思います。「長時間自習×低満足」の層は、全体の内では少数ですが、他よりも比較的多くの自由回答を記述しておりました。その多くは「講義の方法や内容」と「評価方法」に関するもので、「真面目に取り組んだが不満に思うことがあり、低評価につながった」と読み取れるものです。学生からの自由回答には目を通していただき、可能な点は対応していただけますよう、お願いいたします。また、公開授業・FDフォーラム等で優れた授業提供方式・システムを情報収集頂き、ご自身の授業の課題に合わせた改善を継続的に図って頂けると幸いです。

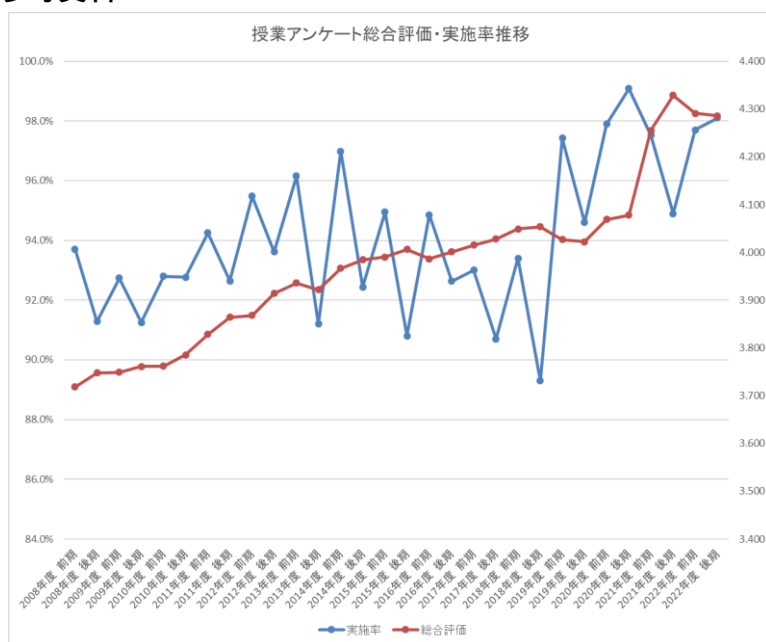
6 おわりに

2022年度後期は、ほぼ対面授業に戻りました。先生方には、コロナ禍で試行錯誤されて得た様々な工夫を対面講義に生かして実施していただいたと思います。今回の集計結果は、教員の熱意や工夫が、学生の成長度・総合満足度として表れていました。教員の熱意や工夫が、学生にしっかりと伝わっており、高い満足度につながっているという点は、教員にとって授業準備の励みになることと思います。先生方のご尽力に改めて御礼申し上げます。

一方、懸念としては、学生の自習時間短くなっている傾向がみられたことと、理解度を示す数値が前回より低下したことでした。今後の学力低下が心配されるので、自宅での学習を促すような工夫がさらに必要であると考えられます。

授業提供の方法論やシステムは日々進化しておりますので、継続的な情報収集・試行錯誤が益々重要となります。FD委員会では、本学が掲げる師弟同行・師弟共生の教育目標に沿った質の高い教育が実践できるよう、多角的な視点と多様な情報源から現状を捉え、改善施策を検討して参る所存です。先生方におかれましても、まずアンケート回収率のさらなる向上にご協力頂き、そのうえで授業改善に向けた積極的・継続的な試行錯誤とブラッシュアップ、またFD委員会が主催する講習会などへのご参加をお願い申し上げます。

参考資料



■授業アンケート評価点推移 (2008年前期～2022年後期)

	実施率	総合評価		実施率	総合評価
2008年度 前期	93.7%	3.718	2015年度 前期	94.9%	3.990
2008年度 後期	91.3%	3.748	2015年度 後期	90.8%	4.006
2009年度 前期	92.7%	3.749	2016年度 前期	94.9%	3.986
2009年度 後期	91.3%	3.761	2016年度 後期	92.6%	4.001
2010年度 前期	92.8%	3.762	2017年度 前期	93.0%	4.015
2010年度 後期	92.8%	3.786	2017年度 後期	90.7%	4.028
2011年度 前期	94.3%	3.829	2018年度 前期	93.4%	4.049
2011年度 後期	92.6%	3.864	2018年度 後期	89.3%	4.053
2012年度 前期	95.5%	3.868	2019年度 前期	97.4%	4.027
2012年度 後期	93.6%	3.914	2019年度 後期	94.6%	4.022
2013年度 前期	96.2%	3.936	2020年度 前期	97.9%	4.069
2013年度 後期	91.2%	3.922	2020年度 後期	99.1%	4.078
2014年度 前期	97.0%	3.966	2021年度 前期	97.5%	4.255
2014年度 後期	92.4%	3.984	2021年度 後期	94.9%	4.329
			2022年度 前期	97.7%	4.325
			2022年度 後期	98.1%	4.286

以上